

混沌に愛／遭い！

Konton-ni-Ai!

混沌に愛／遭い！—ヨーロッパと東京をつなぐサウンド、メディアアート、ケアの探求
Konton-ni-Ai! / Ai 'Love/Encounter' CHAOS - Digging Deep into Care by Sound&Media Art by connecting Europe and Tokyo

プレスリリース 2024年5月15日 「混沌に愛／遭い！」実行委員会

科学技術の急速な進展、気候変動や災害、戦争、ジェンダーや人種・経済などによる社会の非対称…様々な問題が絡まり合う現代は、混沌の様相を呈しています。そのような時代においてアーティストは、世界の深淵に触れ、批評的・詩的な表現によって社会に問いかける存在といえます。「混沌に愛／遭い！」では、ヨーロッパと東京のサウンド&メディアアーティストが、「ケア」をめぐる展示、対話、ライブなどを展開します。彼ら彼女らの多様な実践や知見をともに共有していくこと。それは精神や社会におけるケアの創発へと向かうとともに、動植物や環境、地球へのケアへとつながることでしょう。「混沌」を創造的な循環の可能態と見なし、アートを通して未来のケアを挑発し、そしてケアするささやかな実践「混沌に愛／遭い！」。ご参加をお待ちしています！

開催日時 | 2024年5月30日(木)・6月1日(土)・6月2日(日)

- A. トーク&ライブ 5月30日(木) 19:00-23:00 @ SUPER DOMMUNE (渋谷) *スタジオ観覧有料
- B. 展示 6月1日(土)・2日(日) 13:00-19:00 展示 @ CCBT (渋谷) *入場無料
- C. ラウンドテーブル 6月1日(土) 14:00-18:30 @ CCBT (渋谷) *入場無料
- D. サウンド&メディア・デモ 6月2日(日) 13:00-15:00 @ CCBT (渋谷) *入場無料
- E. ライブ 6月2日(日) 18:00- ライブ @ SOUP (落合) *ドネーション制 (～¥2000)

プロデュース&監修: 「混沌に愛／遭い！」実行委員会

助成: COST (European Cooperation in Science & Technology) Toolkit for Care (COST) EU

特別協力: MAD Lab キプロス工科大学

主催 (C, D) / 提携 (B): シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]

協力: SUPER DOMMUNE (A) SOUP (E)

企画: マリノス・クツォミハリス+四方幸子

お問合せ先 (Contact information): 「混沌に愛／遭い！」実行委員会 kontonniai@gmail.com

Rapid progress in science and technology, climate change, disasters, wars, social asymmetries vis-a-vis gender, race, economy, etc. Contemporary world is a chaotic mess of intertwined affairs. In such an era, artists try touch the depths of the world and question society through critical and poetic expression.

"Konton-ni-Ai! / Ai 'Love/Encounter' CHAOS", sound and media artists from Europe and Tokyo hold exhibitions, discourses, and live performances broadly pivoting on the notion of "care". Sharing diverse practices and ways of knowing with one another and the general public, they aspire the emergence of a care-informed understanding for society, animals, plants, the environment, and our planet. "Konton-ni-Ai!" is a practice that views "chaos" as a potential state of creative reciprocity, provoking and caring for the future through art. We look forward to your participation!

May 30 (Thu)・June 1 (Sat)・June 2 (Sun), 2024

A. Talk & Live May 30 (Thu) 19:00-23:00 @ SUPER DOMMUNE (Shibuya) *Studio entrance: charged

B. Exhibition June 1 (Sat) - 2 (Sun) 13:00-19:00 Exhibition @ CCBT (Shibuya) *Free

C. Roundtable June 1 (Sat) 14:00-18:30 @ CCBT (Shibuya) *Free

D. Sound&Media Demo. June 2 (Sun) 13:00-15:00 @ CCBT (Shibuya) *Free

E. Live. June 2 (Sun) 18:00- @ SOUP (Ochiai) *Donation \welcome! / (~¥2000)

○ A, B, E occur in the context of COST Action CA21102 "Toolkit of Care", financially supported by COST (European Cooperation in Science and Technology); organized by MADLab, Cyprus University of Technology.

Produce: Konton-ni-Ai!

Support:



Special Co-operation:



Organizer (C, D)
/ Partnership (B):



Co-operation:



Co-curator: Marinos Koutsomichalis + Yukiko Shikata

イベント概要

A.「混沌に愛／遭い！」presents:トーク「メディアアートの30年++」&ライブ「混沌に愛／遭う！」@ SUPER DOMMUNE (渋谷パルコ 9F + www.dommune.com)

<https://kontonniaidommune.peatix.com/>



5月30日(木) 19:00-21:00

SUPER DOMMUNE:「混沌に愛／遭い！」presents: トーク「メディアアートの30年++」

メディア、サウンドアートやDIY文化をカバーする『Neural』(イタリア)創刊30周年を記念し、編集長であるルドヴィーコを迎え、1990年代初頭からメディアアートのキュレーションに携わる四方と1997年開館のNTTインターコミュニケーション・センター[ICC]に1997年の開館以来学芸員を務める畠中が、メディアアートの30年の展開と展望を語ります。

出演:アレッサンドロ・ルドヴィーコ、畠中実、四方幸子 MC:宇川直宏 *日英逐次通訳付

5月30日(木) 21:00-23:00

SUPER DOMMUNE:「混沌に愛／遭い！」presents: ライブ「混沌に愛／遭う！」

出演: ●LIVE: Ai.step (Kakuya Shiraishi+Scott Allen)、マリノス・クツォミハリス、ファニ・コンスタンティニドゥ、Solar Return (ジェニー・ピケ+ジュリエン・オッタヴィ)、カスパー・T・トゥープリッツ、ヨーゲン・テラー、ラヂオ Ensembles アイダ、ジョセフィン・リンデルブリック ●DJ: アキス・シノス

会場: SUPER DOMMUNE (東京都渋谷区宇田川町 15-1 渋谷 PARCO9F)

主催:「混沌に愛／遭い！」実行委員会 協力: SUPER DOMMUNE

ENTRANCE ¥1000 (限定50人スタジオ観覧者)

Peatixにてチケット受付中 (もしくは当日直接スタジオにお越しください!)

B. 12 時間展「混沌に愛／遭い！」@ CCBT (渋谷)

https://ccbt.rekibun.or.jp/events/konton-ni-ai_2024



6月1日(土)・2日(日) 13:00-19:00

2日間で12時間限りの展示は、アーティストが持参したサウンド、ゲーム、グラフィック、本などで構成されます。AI 覇権主義の視線からプレイする1人用RPGゲーム、サウンドや電磁波を可視化や空間化する作品、日本語も含む複数の言葉で書き留めたアーティストブック、グラフィカルな楽譜、そして複数のアーティストにより制作されたカードゲーム「ケアのアトラス」などなど、私たちが普段気づかない自然や社会の現象を遊びと批評の精神で提示する作品たちをお楽しみください。また「特別展示」として、エキソニモの《Find My LOVE》を紹介いたします。

出品作家: アレクシア・アヒレオス、エキソニモ、マリノス・クツォミハリス、johnsmith、ヨーゲン・テラー、カスパー・T・トゥープリッツ、ジェニー・ピケ+ジュリエン・オッタヴィ、ラヂオ Ensembles アイダ、ジョセフィン・リンデルブリック、「ケアのアトラス」

会場: シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] (東京都渋谷区宇田川町 3-1 渋谷東武ホテル地下2階)

主催:「混沌に愛／遭い！」実行委員会

提携: シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]

*入場無料

C. ラウンドテーブル「混沌に愛／遭い！」@ CCBT（渋谷）

<https://ccbt.rekibun.or.jp/events/ccbtmeetup032>



6月1日（土）14:00-18:30

ラウンドテーブルでは、ヨーロッパと東京のアーティストが、それぞれの表現とともに活動地域の状況や課題を紹介し、それぞれの差異や共通点を確認します。その上で、グローバルな状況におけるアートを「ケア」という観点から対話へと開いていきます。1つ目のテーマ「混沌に愛／遭い - 混沌から生成へ」では、「混沌」を組織化と分散を繰り返す流動的なエネルギーと見なし、触媒としてのアートの意義を検討します。2つ目の「混沌に愛／遭い - 挑発としてのケアもしくは愛」では、アートが日常や社会で異なるものを生み出す問いを喚起することで、「ケア」や「愛」のネットワークが人間ひいてはプラネタリーに広がりうる可能性を話し合います。

ラウンドテーブル1 14:00-16:00

「混沌に愛／遭い - 混沌から生成へ」

出演：マリノス・クツォミハリス、アレクサンドロ・ルドヴィーコ、ジェニー・ピケ、木原共、johnsmith / モデレーター：四方幸子

ラウンドテーブル2 16:15-18:15

「混沌に愛／遭い - 挑発としてのケアもしくは愛」

出演：アレクシア・アヒレオス、ニコス・ロドゥサキス、サラ・キム、福原志保、山川冬樹 / モデレーター：四方幸子

質疑応答 18:15-18:30

会場：シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]（東京都渋谷区宇田川町 3-1 渋谷東武ホテル地下2階）

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]

協力：「混沌に愛／遭い！」実行委員会

* 先着45名様・入場無料・日英同時通訳付

D. サウンド&メディア・デモ「混沌に愛／遭い！」@ CCBT（渋谷）

<https://ccbt.rekibun.or.jp/events/ccbtmeetup032>



6月2日（日）13:00-15:00

サウンド&メディア・デモは、「1人最大5分」枠で展開されるデモ（デモンストレーション）大会です。ヨーロッパと東京のサウンドアーティスト、メディアアーティストに加えて、CCTBのメンバーも登場し、それぞれの表現や活動を惜しみなく披露します。その後会場全体の対話へと開き、シナジーと課題を共有していきます。多様な観点や混沌の中から、新たなアイデアやネットワークが創発する現場に、ようこそ！

出演：アレクシア・アヒレオス、ジュリエン・オッタヴィ、サラ・キム、マリノス・クツォミハリス、ファニ・コンスタンティニドゥ、アキス・シノス、ヨーゲン・テラー、カスパー・T・トゥープリッツ、ジェニー・ピケ、ジョセフィン・リンデルブリンク、アレクサンドロ・ルドヴィーコ、ニコス・ロドゥサキス、木原共、johnsmith、伊藤隆之・木村悠介・田部井勝彦・廣田ふみ（シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]） / モデレーター：四方幸子

会場：シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]（東京都渋谷区宇田川町 3-1 渋谷東武ホテル地下2階）

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]

協力：「混沌に愛／遭い！」実行委員会

* 先着30名様・入場無料・日英逐次通訳付

E. ライブ HEAVIER THAN JUPITER (volume 30) presents :「混沌の夢！」@ SOUP（落合）

6月2日（日）17:30 open / 18:00 start

出演：マリノス・クツォミハリス、ファニ・コンスタンティニドゥ、デイブ・スキッパー、Solar Return（ジェニー・ピケ+ジュリエン・オッタヴィ）、ヨーゲン・テラー、西山伸基、山川冬樹、ラデオ Ensembles アイダ、ジョセフィン・リンデルブリンク、カスパー・T・トゥープリッツ ● DJ：アキス・シノス

会場：SOUP（東京都新宿区上落合 3-9-10 三笠ビル B1F）<https://ochiaisoup.com/>

入場：ドネーション制（～ ¥2000）

主催：「混沌に愛／遭い！」実行委員会 + HEAVIER THAN JUPITER

協力：SOUP

出演者一覧・プロフィール

From EUROPE : アレクシア・アヒレオス

ジュリエン・オッタヴィ

サラ・キム

マリノス・クツォミハリス

ファニ・コンスタンティニドゥ

アキス・シノス

ヨーゲン・テラー

カスパー・T・トゥープリッツ

ジェニー・ピケ

ジョセフィン・リンデルブリンク

アレッサンドロ・ルドヴィーコ

ニコス・ロドゥサキス

Alexia Achilleos

Julien Ottavi

Sarah Kim

Marinos Koutsomichalis

Fani Konstantinidou

Akis Sinos

Jørgen Teller

Kasper Toeplitz

Jenny Pickett

Josefine Linderbrink

Alessandro Ludovico

Nikos Rodousakis

From TOKYO : Ai.step (Kakuya Shiraishi+Scott Allen)

木原共

johnsmith

デイブ・スキッパー

西山伸基

畠中実

福原志保

ラヂオ Ensembles アイダ

山川冬樹

シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] Civic Creative Base Tokyo [CCBT]

(伊藤隆之、木村悠介、田部井勝彦、廣田ふみ) (Takayuki Ito, Yusuke Kimura, Katsuhiko Tabei, Fumi Hirota)

宇川直宏

四方幸子

Ai.step (Kakuya Shiraishi+Scott Allen)

Tomo Kihara

johnsmith

Dave Skipper

Nobuki Nishiyama

Minoru Hatanaka

Shiho Fukuhara

Radio ensembles Aiida

Fuyuki Yamakawa

Naohiro Ukawa

Yukiko Shikata

Special entry : エクソニモ 《Find My LOVE》

exonemo “Find My LOVE”

From EUROPE

ABCDE …出演イベント



BCD

アレクシア・アヒレオス (フィンランド&キプロス) | アーティスト、研究者。フィンランド系キプロス人。キプロス拠点に活動。東地中海地域の歴史、地政学、テクノロジーに影響を与える権力関係に焦点を当てる。多様なメディアを駆使する彼女の作品は、支配的な物語を再解釈し、歴史や社会に加えて AI 技術にも見られる偏見を、脱植民地的かつ交差的な視点で問いかける。アルスエレクトロニカ・フェスティバル、NeMe アートセンター、CVPR (コンピュータービジョンとパターン認識に関する会議)、NeurIPS、世界知的所有権機関などで作品を発表。CYENS Center of Excellence の PhD フェローとして植民地主義と AI に関する芸術的研究を行うほか、キプロス工科大学 Media Art & Design Research Lab (MADLab) の研究員も務める。

www.alexiaachilleos.com

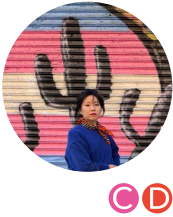
Alexia Achilleos (Finland&Cyprus): Achilles is a Finnish-Cypriot artist and researcher based in Cyprus. Alexia is interested in the power dynamics that impact history, geopolitics and technology, with a focus on the Eastern Mediterranean region. Working with a variety of media, her work re-interprets dominant narratives and questions biases found within history and society, but also within AI technology itself, through a decolonial and intersectional lens. Her work has been presented at institutions and conferences such as Ars Electronica festival, NeMe Arts Centre, Conference on Computer Vision and Pattern Recognition (CVPR), NeurIPS, and World Intellectual Property Organization. Alexia is a PhD Fellow at CYENS Centre of Excellence, undertaking artistic research on colonialism and AI, as well as a Research Associate at the Media Art & Design Research Lab (MADLab) at Cyprus University of Technology. www.alexiaachilleos.com



ABDE

ジュリエン・オッタヴィ (フランス) | アーティスト、キュレーター、メディアアクティビスト。サウンドアート、リアルタイムビデオ、ニューテクノロジー、ボディパフォーマンスを組み合わせたリサーチやクリエイティブな活動に携わる。1997 年以来音声を使用した作曲作品とコンピュータによる音声の変換の開発、Puredata でのオーディオ／ビジュアルプログラムや DIY 電子機器を開発、デジタルアート、A/V、ストーリーミングの普及のための Gnu/Linux オペレーティングシステム APODIO の主要な開発者。長年にわたり自律的な集団グループの創設における実験的実践と集団的実践の関係を考察し、「芸術イデオロギー」の著者戦略に疑問を投げかけてきた存在。 www.apo33.org/noise

Julien Ottavi (France) : Artist, curator, media activist. He is involved in research and creative work, combining sound art, real-time video, new technologies and body performances. Since 1997, he has developed composition work using voice and its transformation through computers. Active developer of audio/visual programs with Puredata, he has also developed for many years DIY electronics. Main developer for the Gnu/Linux operating system APODIO for digital art and A/V & streaming diffusion. For many years he has reflected on the relations between experimental practices and collective practices within the creation of autonomous collective groups, putting in question the authorship strategy of the "art ideology". www.apo33.org/noise



サラ・キム（スウェーデン） | 看護師、キュレーター。1981年生まれ、ストックホルム在住。学際的なグループかつアート&リサーチプロジェクト「Mapping the Unjust City」のメンバーとして、都市における所有や資本のフローに関する美学と教育学を探究している。

Sarah Kim (Sweden) : Nurse, curator. Born 1981, based in Stockholm. She is a member of Mapping the Unjust City, an interdisciplinary group and ongoing art & research project exploring aesthetics and pedagogy in relation to ownership and capital flows in cities.



マリノス・クツォミハリス（ギリシャ&キプロス） | アーティスト、学者、クリエイティブ・テクノロジスト、MAD（メディアアーツ&デザイン・リサーチ）ラボディレクター、COSTアクション議長。自己生成システムの重要性、（ポスト）デジタルの対象性、音、画像、データ、電子回路、知覚、自己性、風景／環境、そして私たちが仲介、調査し、インタラクトするメディア／テクノロジーに広く興味を持ち、国内外での展示やパフォーマンスを行う。ギリシャ、イタリア、ノルウェー、英国で研究や教職についた後、キプロス工科大学でクリエイティブ・マルチメディアの助教授を務める。www.marinoskoutsomichalis.com

Marinos Koutsomichalis (Greece&Cyprus): Artist, scholar, and creative technologist. Director of MAD (Media Arts&Design Research Lab). He is broadly interested in the materiality of self-generative systems, (post-)digital objecthood, sound, image, data, electronic circuitry, perception, selfhood, landscapes/environments, and the media/ technologies we rely upon to mediate, probe, interact with. He has exhibited or performed his work extensively and internationally and has held research or teaching positions in Greece, Italy, Norway, and the U.K. Assistant Professor in Creative Multimedia at the Cyprus University of Technology. www.marinoskoutsomichalis.com



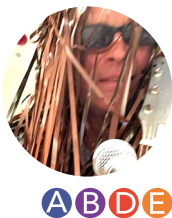
ファニ・コンスタンティニドゥ（オランダ&ギリシャ） | 作曲家、パフォーマー、リサーチャー。文化的、異文化的、社会的アイデンティティの音の痕跡に興味を持つ。彼女は都市と田舎の音響環境、話し言葉、地元文化と絡み合った楽器などを主なテーマとし、現代音楽の制作における文化的影響に焦点を当て研究を行う。女性、LGBTQ+ コミュニティおよび過小評価されているすべての声の存在と不在に焦点を当て、電子音楽とサウンドアートの多様性を提唱するプラットフォーム Stichting New Emergences 創設メンバー。
www.fanikonstantinidou.com / www.newemergences.com

Fani Konstantinidou (The Netherlands&Greece): Composer, performer. Konstantinidou is interested in the sonic imprints of cultural, cross-cultural, and social identities. Her main topics of interest are the urban and rural sonic environments, spoken language, and musical instruments intertwined with local cultures. Her research is concentrated on the cultural impact in the making of contemporary music. She is one of the founding members of Stichting New Emergences, a platform advocating on diversity in electronic music and sound art, by highlighting the presence and absence of women, LGBTQ+ communities, and all under-represented voices. www.fanikonstantinidou.com / www.newemergences.com



アキス・シノス（ギリシャ） | アーティスト、DJ、Hypermedium Record 代表。2015年に Hypermedium を共同設立し、国際的なアーティストの多様な名簿を集め、電子音楽における現代的な方向性を紹介している。2018年には Ubique の創設に参加し、一連のセミナーを主導。Ubiqueは、デジタルオーディオ合成、現代美術の美学と哲学、サウンドへの現象学的および生態学的なアプローチ、感覚的相互作用、オンライン音楽アプリケーション、その他の関連問題など、現代の音作りに関連する技術的および美的問題を検討するプラットフォームとして機能した。www.hypermedium.org

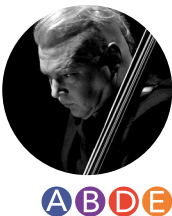
Akis Sinos (Greece): Artist, DJ, head of Hypermedia Record Label. In 2015 he co-founded Hypermedium, amassed a diverse roster of international artists and aiming to showcase contemporary directions in electronic music. In 2018, he took part in the creation of Ubique, where he also led a series of seminars. Ubique acted as a platform that examined technical and aesthetic issues relating to modern sound-making such as digital audio synthesis, aesthetics and philosophy of contemporary art, phenomenological and ecological approaches to sound, sensory interaction, online music applications, and other relevant issues. www.hypermedium.org



A B D E

ヨージェン・テラー（デンマーク） | 電子音響作曲家、実験的ソングライター、オーガナイザー。1958年コペンハーゲン生まれ。彼の作品とプロジェクトは、電気音響、ラジオ作品、サウンド彫刻、MIDIギター、グレイン、ドローン ポップ、歌、都市や屋外のサウンドスケープ、国際的なダンス、演劇、詩、ビデオ、映画、建築のサウンドトラックに焦点を当てる。コペンハーゲンおよび海外でフェスティバル、イベント、レジデンスの企画も行う。 www.jorgenteller.dk

Jørgen Teller (Denmark): Electroacoustic music composer, experimental songwriter, organizer. Born 1958 in Copenhagen. His compositions and projects focus on electroacoustics, radio pieces, sound sculpture, MIDI-guitar, grains, drone-pop, songs, soundscapes of cities and open air, soundtracks for international dance, theatre, poetry, video, film and architecture. He occasionally organises festivals, events, and residencies in Copenhagen and internationally. www.jorgenteller.dk



A B D E

カスパー・T・トゥープリッツ（フランス&ポーランド） | 作曲家、ベースプレイヤー、音楽家。オーケストラ、アンサンブル、オペラなどの「学術的な」作曲と電子的な「ニューミュージック」や「ノイズミュージック」の間の未踏の領域を切り開き、受賞や栄誉に輝く。1997年度ヴィラ九条山（京都）の滞在アーティスト。フランス政府やラジオ、そして Ircam、GRM、GMEM、CRFMW、EMS などの電子スタジオからの委嘱による作品多数。コンピュータを思考と作曲のツールとして根幹に据えつつ、ライブでは必要に応じてより伝統的な楽器を組み込みんだり、純粋な電子ノイズを使用する。 www.sleazeart.com

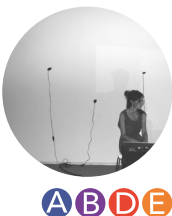
Kasper T. Toeplitz (France&Poland): Composer, base player, musician. His work in the no man's land between "academic" composition (orchestra, ensembles, opera) and electronic "new music" or "noise music". Has won several prizes and distinctions. In 1997 he stayed as an artist at Villa Kujoyama (Kyoto), /Got numerous commissions from the French Government, the radio and from electronic studios such as Ircam, GRM, GMEM, CRFMW, EMS. Has integrated the computer into the very heart of his work, as a tool of thought and composition, and as a live instrument, hybridising more traditional instruments if necessary, or working on the sheer electronic noise. www.sleazeart.com



A B C D E

ジェニー・ピケ（フランス&英国） | アーティスト、リサーチャー、オーガナイザー。彫刻、音、ドローイング、ビデオ、インタラクティブ作品およびパフォーマンスを展開。アーティスト・コレクティブ APO33 のメンバー。フランスのナント建築学校で芸術と表現技法を教える。

Jenny Pickett (France&UK): Artist, researcher, organizer. Her works range sculpture, sound, drawing, video, interactivity and performance. Pickett is a member of the Artists collective APO33 and she is currently teaching art and Techniques for representation at The Nantes School of Architecture.



A B D E

ジョセフィン・リンデルブリンク（スウェーデン） | 音響家、アーティスト、リサーチャー。音楽と物理学の背景を持つ彼女は、エマージングテクノロジーと身体との出会いを批評的に探求する。建築音響学、サウンドアート、音響心理学、聴覚に基づく知覚について、建築家、音響技師、聴覚学者、都市計画家、パフォーマンスアーティスト、ミュージシャンを教える顔も持つ。 www.josefinlindebrink.com

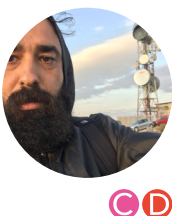
Josefine Linderbrink (Sweden): Acoustician, artist, researcher. With a background in music and physics her work critically explores encounters between emerging technologies and the human body. She educates architects, acousticians, audiologists, urban planners, performance artists and musicians in architectural acoustics, sound art, psychoacoustics and hearing-based-perception. www.josefinlindebrink.com



A C D

アレッサンドロ・ルドヴィーコ（イタリア&英国） | アーティスト、リサーチャー。1993年よりデジタル文化とメディアアートの批評誌『Neural』（イタリア）の編集長を務める。英国サウサンプトン大学のウィンチェスター・スクール・オブ・アート准教授。00年代に展開された独占企業をハッキングするアートプロジェクト 3 部作（Google Will Eat Itself, Amazon Noir, Face to Facebook）の作者の一人でもある。 www.neural.it

Alessandro Ludovico (Italy&UK): Artist, researcher, chief editor of Neural magazine since 1993. Associate Professor at the Winchester School of Art, University of Southampton. He is one of the authors of the award-winning Hacking Monopolism trilogy of artworks (Google Will Eat Itself, Amazon Noir, Face to Facebook). www.neural.it



C D

ニコス・ロドウサキス（ギリシャ） | 経済学者、コンサルタント、ロビイスト、ラジオ・プロデューサー。彼は経済研究とギリシャの実験音楽シーンで有名な人物です。計画経済研究センター（KEPE）の上級研究員およびバード大学レビー経済研究所研究員。2012年よりギリシャのアンダーグラウンド・ミュージックシーンを探索しマッピングするプラットフォームであるラジオ番組 Proschedio のプロデューサー兼創設者として、地元の音楽シーンで活躍。コルモゴロフやMOAなどの電子音楽プロジェクトへの参加、インディペンデント音楽雑誌『LUNG』編集委員も務める。科学的な専門知識と芸術的な活動を合わせ持つ稀有な存在。

Nikos Rodousakis (Greece): Economist, Consultant, Lobbyist, Radio Producer. A renowned figure in economic research and the Greek experimental music scene. He is currently working as a senior researcher at the Center of Planning and Economic Research (KEPE) and a research scholar at the Levy Economics Institute of Bard College. In the local music scene as a producer and founder of the 'Proschedio' radio show since 2012, a platform dedicated to exploring and mapping the Greek underground music scene. He is also an active participant in electronic music projects like Kolmogorof and MOA, and serves on the editorial board of 'LUNG', an independent music magazine. Rodousakis' unique blend of scientific expertise and artistic engagement aids in bridging the gap between analytical rigour and creative expression.

Special entry!



B

エキソニモ | 千房けん輔と赤岩やえによるアーティスト・デュオ。ニューヨーク拠点。1996年にインターネット上で活動を開始。以降、ネットワーク時代の人間の身体性や感情を、デジタル／アナログメディアを掛け合わせ、批評的かつユーモラスな切り口で表現する。メディアアート、コンテンプラリーアート双方からの評価を得、受賞にアルス・エレクトロニカのゴールデン・ニカ(2006)や、文化庁芸術選奨 芸術部門新人賞(2021)など。ホイットニー美術館でのオンライン展示(2019)、東京都写真美術館での大規模個展(2020)をはじめ、国際展にも多く参加。2012年に立ち上げたイベント「インターネットヤミ市」は、世界30都市以上に広がっている。exonemo.com

exonemo : Japanese artist duo comprised of Kensuke Sembo and Yae Akaiwa. Based in New York. Since they started activities on the Internet in 1996, they have been expressing human physicality and emotions in the network age through critical and humorous approaches, crossing digital and analog. Awards include the Golden Nica at Ars Electronica (2006), the Agency for Cultural Affairs' Art Encouragement Prize for New Artists (2021), receiving recognition from both the media art and contemporary art fields. Many international exhibitions including online at the Whitney Museum of American Art (2019), a solo exhibition at Tokyo Photographic Art Museum (2020). "The Internet Yami-Ichi" (since 2012) has spread to more than 30 cities worldwide. exonemo.com

協力: NEORT

From TOKYO



A

Ai.step (Kakuya Shiraishi+Scott Allen) | AIと協奏するオーディオビジュアルユニット。自作ソフトウェアを駆使した表現を得意とするプログラマーのKakuya Shiraishi、想像力とテクノロジーの関係を探索するアーティストのScott Allenによる。メンバーそれぞれが音響/映像の両方に携わり、自作のライブコーディング環境で学習させたAIを使用した音響生成や、データの視覚化、生成モデルを使用して、フレキシブルにパフォーマンスを行う。https://ai-step.github.io/

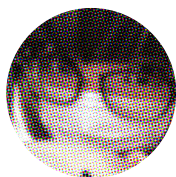
Ai.step (Kakuya Shiraishi+Scott Allen) : Audiovisual unit that collaborates with AI. Kakuya Shiraishi is a programmer who specializes in expression through self-made software, and Scott Allen, an artist exploring the relationship between imagination and technology. Each member is involved in both audio and video, and performs flexibly, using AI trained in a self-made live coding environment to generate sound, visualize data, and use generative models. https://ai-step.github.io/



C D

木原共 | メディアアーティスト、ゲーム開発者。新たな問いを人々から引き出す遊びをテーマに、実験的なゲームやインスタレーションの開発を行う。慶應義塾大学環境情報学部卒業後、オランダのデルフト工科大学院のインタラクションデザイン科を修了。その後、アムステルダムに拠点を置く研究機関Waag Futurelabや米国のMozilla FoundationとAIの社会的影響に焦点を当てたプロジェクトを行う。近年の作品はアルス・エレクトロニカSTARTS PRIZE(リンツ、2021年)にノミネートされたり、Victoria & Albert Museum(ロンドン、2022年)で展示された。https://www.tomokihara.com/

Tomo Kihara: Media artist, game designer. Tomo Kihara designs and codes experimental games and installations that draw out unexplored questions from people through play. After graduating from Keio University, he completed his master's in Interaction Design at Delft University of Technology in the Netherlands. He has since worked on projects focusing on the social impact of AI with institutions such as Waag Futurelab in Amsterdam and the Mozilla Foundation in the USA. His recent works have been nominated for the Ars Electronica STARTS PRIZE (Linz, 2021) and exhibited at the Victoria & Albert Museum (London, 2022). https://www.tomokihara.com/



B C D

johnsmith | アーティスト、研究者。東京大学総合文化研究科博士課程、学術専門職員。東京藝術大学非常勤講師。ALTERNATIVE MACHINE Inc. 所属。美術大学を卒業後、芸術の非言語的性質に興味を持ち、物理学を背景にもつ東京大学池上高志研究室へ入学し、“いずれ科学が、そして人文知が到達するものとしての芸術”をテーマに活動する。哲学や科学的解析ではアプローチできない非言語的な領域に対し、それを形にする手段として芸術を用いる。2023年大阪大学中之島センター「人工知能時代の芸術:創造性・影響・課題」シンポジウム登壇、2019年ドイツのZKMにリサーチのために滞在。http://johnsmithstudios.com/

johnsmith: Artist, researcher. Ph.D student Graduate School of Arts and Sciences, university of Tokyo, Part time teacher of Tokyo Art University, Affiliation of Alternative Machine Inc. After graduating from the University of Fine Arts, they became interested in the non-verbal nature of art and entered the Takashi Ikegami Laboratory at the University of Tokyo, which has a background in physics, to work on the theme of "art as something that science and human knowledge will eventually reach". They use art as a means of giving form to non-verbal areas that cannot be approached through philosophy or scientific analysis. In 2023, symposium "Art in the Age of Artificial Intelligence: Creativity, Impact and Challenges" at Osaka University Nakanoshima Centre, Research and Artist Residence in ZKM (2019). http://johnsmithstudios.com/



E

ディブ・スキッパー | オーガナイザー、ミュージシャン。2010年に英国から日本へ移住。モジュレーションセのハーシュノイズ／エクスペリメンタル／ドローン／アンビエント。極端で奇妙な音のテクスチャーに魅了される。実験／ノイズイベントシリーズ Heavier Than Jupiter (HTJ・木星より重い) オーガナイザー、Tokyo Festival of Modular (TFoM) 共同創設者、その他 Pollinate (テラダ・キョウスケと)、jamijami (Daliepyと)、Mysteries of Modular など。2020年φ onon よりコンセプト・エクスペリメンタル・ノイズ・アルバム「Elijah」をリリース。現在、聖書の中の音を調査する大著プロジェクト「Deep Sonics」に取り組んでいる。<https://daveskipper.bandcamp.com> <https://tinyurl.com/deepsonics>

Dave Skipper: Dave Skipper: Organizer, Musician. Moved from the UK to Japan in 2010. Modular synth harsh noise/experimental/drone/ambient. Fascinated by extreme and strange sound textures. Organiser of experimental/noise event series Heavier Than Jupiter (HTJ), co-founder of Tokyo Festival of Modular (TFoM), and other events such as Pollinate (with Kyosuke Terada), jamijami (with Daliepy), Mysteries of Modular, and more. Concept experimental noise album 'Elijah' released by φ onon in 2020. Currently working on 'Deep Sonics,' a big book project investigating sound in the Bible. <https://daveskipper.bandcamp.com> <https://tinyurl.com/deepsonics>



E

西山伸基 | 京都出身。エレクトロニック・ミュージックのプロデューサー。明確な楽曲性からは一歩距離を置き、フィードバックや位相のズレ、LFO によるゆらぎなどによって生じる自然発生的な音響現象をまとめあげる。いくつかのデジタル・プラットフォームでのリリースを経て、2020年 LP『residue』発表。また、2000年代中頃から新宿区落合の地下空間 soup を友人たちとともに運営、国内外におけるライブ・サーキットへと無数に携わっている。インディペンデント・レーベル／イベント・シリーズ「0 奏 (Edition Zero)」コ・ファウンダー。

Nobuki Nishiyama: Kyoto-born, and currently Tokyo-based electronic music producer. He places his own work at a deliberate distance from composed musical forms, instead choosing to explore the accrual of naturally occurring acoustic phenomena such as feedback, phase-correlation, and LFO fluctuation, etc. After releasing his music on several digital platforms, he released his LP "residue" in 2020. Since the mid-2000s with some friends he has been running soup, a small independent music venue and collective in Tokyo. Co-founder of the independent label/event series edition zero (0 奏).



A

畠中実 | 1968年生まれ。NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] 主任学芸員／学芸課長。1996年の開館準備より ICC に携わり、多数の展覧会を手がける。近年の展覧会は、「ICC アニュアル 2023 ものごとのかたち」、「坂本龍一トリビュート展 音楽／アート／メディア」(ともに 2023年)。美術および音楽批評。著書に『メディア・アート原論』(久保田晃弘との共編著、フィルムアート社、2018年)がある。

Minoru Hatanaka: Born in 1968, chief curator at the NTT InterCommunication Center [ICC], he has been involved in the activities of ICC since 1996, prior to the facility's opening. He has been involved in numerous exhibitions every year. Recent exhibitions include "ICC Annual 2023: The Shape of Things" and "Tribute to Ryuichi Sakamoto: Music / Art / Media" (both 2023). He also writes on art and music.



C

福原志保 | アーティスト、デザイナー、研究者。生命倫理、人と技術、人と環境の関係からエラーの意味を再発見し、人間を取り巻く環境を捉え直すことをテーマにしたアート作品を Human Awesome Error として発表している。また研究者として、身体性と審美性と物質性の関係性が私たちの意識にクリティカルに作用することに注目し、自然科学と工芸技術を組み合わせた素材研究開発に従事。2023年京都にて Empathy Economy (共感経済) と Circular Alchemy (循環文化) を創ることを目的とした Poiesis Labs 合同会社を設立し、アート、工芸、デザイン、テクノロジー、ストーリーテリングの知見を持つメンバーとプロジェクトを企画運営する。

Shiho Fukuhara: Artist, designer, and researcher. She explores how new technology and traditional crafts can critically reflect our consciousness of physicality, aesthetics, and materiality. She has been creating art work and products by developing new materials such as genetically modified plants, smart textiles, and biologically enhanced yarns. She joined Google ATAP's Project Jacquard as a Technology Integration Lead in 2014 and was one of its founding members. She is a member of Human Awesome Error and a founder of Poiesis Labs. <https://hae.tokyo/>



A B E

ラヂオ Ensembles アイダ | ラジオアーティスト、パフォーマンス・インスタレーション・アーティスト。ラジオを用いた作品制作やパフォーマンスを国内外で展開。環境に存在する様々な境界をクロスオーバーさせ、実験音楽、現代美術、演劇など様々な分野で活動を行う。VLZ PRODUKT より 1st album 「IN A ROOM (Radio of the Day#1)」、φ onon より 2nd album 「FROM ASIA (Radio of the Day#2)」、3rd album 「by chance ≡ by choice」をリリース。<https://aiidaxaiida.net/>

Radio ensembles Aiida: Radio Artist, Performing Installation Artist. Engaging in the creation of works and performances using radio, both domestically and internationally. Her approach involves a fusion of performance and installation, crossing various boundaries present in our environment. She actively participates in activities across diverse fields such as experimental music, contemporary art, and theater. Released the 1st album "IN A ROOM (Radio of the Day#1)" from VLZ PRODUKT, followed by the 2nd album "FROM ASIA (Radio of the Day#2)" and the 3rd album "by chance ≡ by choice" from φ onon. <https://aiidaxaiida.net/>



CE

山川冬樹 | 現代美術家、ホーメイ歌手。自らの声・身体を媒体に視覚、聴覚、皮膚感覚に訴えかける表現で、音楽／現代美術／舞台芸術の境界を超えて活動。己の身体をテクノロジーによって音や光に拡張するパフォーマンスや、南シベリアの伝統歌唱「ホーメイ」を得意とし、これまでに16カ国で公演を行う。現代美術の分野では、マスメディアと個人をめぐり記憶を扱ったインスタレーション『The Voice-over』や、「パ」という音節の所有権を販売することで成立するパフォーマンス『「パ」日誌メント』などを発表。ハンセン病療養所での長期的な取り組みもある。秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科アーツ&ルーツ専攻准教授。

Fuyuki Yamakawa: Artist, Khomei singer. Using his own voice and body as a medium, he creates expressions that appeal to visual, auditory, and cutaneous sensations, transcending the boundaries of music, contemporary art, and performing arts. He specializes in performances that use technology to expand his body into sound and light, as well as the traditional southern Siberian song "Khomei", and has performed in 16 countries so far. In the field of contemporary art, he has presented "The Voice-over," an installation that deals with the relationship between mass media and personal memory, and a performance "Pa'nissiment" created by selling the ownership of the syllable "pa". There is also a long-term project at a leprosy sanatorium. Associate Professor of "Arts & Roots" section of Akita University Arts.

シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]



D

伊藤隆之 | シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] テクニカルディレクター。2023年まで山口情報芸術センター [YCAM] InterLab ディレクターをつとめる。現在は、CCBTにてテクニカル全般のディレクションを行う。音響エンジニアリング、ソフトウェア開発からバイオテクノロジーの応用まで、幅広い技術ディレクションを手がけ、多くの芸術作品やワークショップの制作、イベントやプロジェクトの企画などに関わる。

Takayuki Ito: Technical Director, Civic Creative Base Tokyo [CCBT]. He was the director of InterLab at Yamaguchi Center for Arts and Media until 2023. Ito currently oversees all technical direction at Civic Creative Base Tokyo [CCBT]. He provides technical direction across an array of areas, from sound engineering and software development to biotechnology applications, and has worked prolifically as a producer for artworks and workshops, and event and project planner.



D

木村悠介 | 演出家、パフォーマー。演劇、ダンス、パフォーマンスなど、舞台芸術を中心に領域横断的に活動。京都造形芸術大学で舞台芸術と映像芸術を、岐阜県立情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] でメディア・アートを学び、2012年に渡独。2013年にベルリン芸術大学内の教育機関 HZT Berlin の修士課程 Solo/Dance/Authorship (MA SODA) に日本人で初めて入学。2016年に帰国。扱う主題やメディア、表現形態の歴史や構造に着目し、＜自他境界の攪乱＞を通底したテーマとする。また2017年からは現代美術のインストーラーとしても活動。 <https://yusuke-kimura.net/>

Yusuke Kimura: Director, Performer. His interdisciplinary practice centers on theater, dance, and performance. After studying performing arts and film at Kyoto University of the Arts and media art at the Institute of Advanced Media Arts and Sciences in Gifu, he relocated to Germany in 2012. In 2013, he was the first Japanese student accepted on to the MA Solo/Dance/Authorship degree program at HZT Berlin, UdK Berlin. Kimura returned to Japan in 2016. With a focus on the structures and history of his themes, media, and forms of expression, his work is characterized by its underlying subversion of the boundary between the self and others. Since 2017, he has also worked as a contemporary art installer. <https://yusuke-kimura.net/>



D

田部井勝彦 | シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] メンバー。大学卒業後、プラスチック部品製造会社での金型設計に従事。2007年に情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 修了。IAMAS システム管理専門職、京都芸術大学ウルトラファクトリーテクニカルスタッフ、東京芸術大学芸術情報センター (AMC) 教育研究助手、スーパー・ファクトリーテクニカルディレクターとして、デジタルファブリケーションや木工・金工を駆使した制作を行う。また、大学在学中よりメディアアート作品を制作してきた経験を活かし、MeAM studio 代表として展示インストーラー、メディアアート作品の修復、メンテナンスなども行う。2022年には、シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] のテクニカル担当として施設立ち上げに参画。

Katsuhiko Tabei: Civic Creative Base Tokyo [CCBT] member. After graduating from university, Tabei Katsuhiko worked as a mold designer for a plastic parts manufacturer. In 2007, he completed postgraduate studies at the Institute of Advanced Media Arts and Sciences. In his subsequent roles as systems manager at IAMAS, technician at the Kyoto University of the Arts Ultra Factory, assistant at the Tokyo University of the Arts Art Media Center, and technical director at Super Factory, Tabei has employed digital fabrication equipment as well as woodworking and metalworking techniques. Harnessing his experience of making media art from his university days, he serves as director of MeAM studio, undertaking exhibition installation and media art restoration and maintenance. In 2022, he was involved in launching Civic Creative Base Tokyo as its technical director.



D

廣田 ふみ | シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] メンバー。IAMASメディア文化センター、山口情報芸術センター[YCAM]を経て、2012年より文化庁にてメディア芸術の振興施策に従事。文化庁メディア芸術祭および海外・地方展開を含む事業を担当。2015年より国際交流基金にて、日本と東南アジアの文化交流事業の一環としてメディア文化、メディアアートをテーマとした事業を企画。2020年より現職。東京都の文化施設が有する収蔵品等の文化資源をデジタル化し、多様な形態での鑑賞体験を提供する「TOKYOスマート・カルチャー・プロジェクト」等の立ち上げに参加。2022年には、渋谷のシビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] の開設に参画。

Fumi Hirota: Civic Creative Base Tokyo [CCBT] member. After stints at the Institute of Advanced Media Arts and Sciences and Yamaguchi Center for Arts and Media, Hirota Fumi joined the Agency for Cultural Affairs in 2012, where she was involved in promoting the Japan Media Arts Festival, especially expanding its reach internationally and regionally. In 2015, she joined the Japan Foundation, working on media culture and art projects for the foundation's cultural exchange programs between Japan and Southeast Asia. Hirota took up a post at the Tokyo Metropolitan Foundation for History of Culture in 2020, helping launch Tokyo Smart Culture Project, which digitizes cultural resources like the collections of Tokyo's cultural institutions and offers various types of viewing experiences. In 2022, she was part of the team behind the opening of Civic Creative Base Tokyo [CCBT] in Shibuya.



A

宇川直宏 | 現在美術家。映像作家、グラフィックデザイナー、VJ、文筆家、キュレーター、大学教授、そして“現在美術家”など極めて多岐にわたる活動を展開する。2010年、ライブストリーミング・チャンネル「DOMMUNE」を開局し、毎夜、オルタナティブ・プログラムを世界に配信。宇川はDOMMUNEスタジオで日々産み出される番組の、撮影行為、配信行為、記録行為を、自らの「現在美術作品」と位置づける。2021年、第71回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2023年、練馬区立美術館での個展「宇川直宏展 | FINAL MEDIA THERAPIST @DOMMUNE」。

Naohiro Ukawa: Current Artist. He engages in an extremely wide range of activities, including a videographer, graphic designer, VJ, writer, curator, university professor. In 2010, he launched the live streaming channel “DOMMUNE”, which broadcasts alternative programs to the world every night. Ukawa considers the acts of filming, distributing, and recording the programs produced every day at DOMMUNE Studio to be his “current works of art.” In 2021, won the 71st Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology Award for Art Encouragement. Solo exhibition “Naohiro Ukawa FINAL MEDIA THERAPIST @DOMMUNE”(Nerima Museum of Art, 2023).



A C D

四方幸子 | キュレーター、批評家。美術評論家連盟会長。「対話と創造の森」アーティスティックディレクター。多摩美術大学・東京造形大学客員教授、武蔵野美術大学・情報科学芸術大学院大学 (IAMAS)・京都芸術大学非常勤講師。「情報フロー」というアプローチから諸領域を横断する活動を展開。1990年代よりキャノン・アートラボ (1990-2001)、森美術館 (2002-04)、NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] (2004-10) と並行し、インディペンデントで先進的な展覧会やプロジェクトを多く実現。国内外の審査員を歴任。著書に『エコゾフィック・アート 自然・精神・社会をつなぐアート論』(2023)。共著多数。
yukikoshikata.com

Yukiko Shikata: Curator, critic. President of AICA (International Association of Art Critics) Japan, artistic Director of “Forest for Dialogue and Creativity”. Visiting professor at Tama Art University and Tokyo Zokei University, lecturer at Musashino Art University and Institute of Advanced Media Arts and Sciences (IAMAS) and Kyoto University of the Arts. Her activities traverse existing fields by focusing on “Information flows”. In parallel, working as a curator of Cannon ARTLAB (1990-2001), Mori Art Museum (2002-2004), senior curator of NTT InterCommunication Center[ICC] (2004-2010), as an independent curator, realized many experimental exhibitions and projects. Juror of many international competitions. Published “Ecosophic Art” in 2023, many co-publications. yukikoshikata.com